



「読む気持ち」書店が2023年9月1日に京畿道高陽市で開かれた「大韓民国読書展」の野外イベントで、9月1日が誕生日の人のための本を展示販売する様子。

書店レポート from 韓国 Report

韓国の 新しい書店 &

今話題の書店

そのカルチャーは日本でも大人気！
韓国の書店の新しい魅力をお伝えします。

ブックキュレーターとなる書店

出版社で一冊の本を作る際、テーマに合う多様な資料を取捨選択してきれいに整理する作業が「編集」です。書店では、そのように作られた多くの本の中から適切な本を選んで「本棚を編集」します。韓国では、読者に良い本を推薦する「ブックキュレーター」の役割を果たす書店が増えています。そんな書店をいくつかご紹介します。

誕生日の本の専門書店「読む気持ち」

京畿道の光明市にある「読む気持ち」は、2018年に「夢見る星の本屋」として開業し、23年2月、現在の商号に変更しました。売り場に並んでいる本はすべて包装されていて、表紙には著者の誕生日だけが

書かれています。1年365日のうち、本をプレゼントする人の誕生日と同じ日の本の中から一冊を選べば良いわけです。包装紙の表面には本の中の一文が、裏面には本の内容のヒントになるようなキーワードが書かれています。誕生日プレゼント用に、また、恋人たちの記念日に買われる本が多いようです。23年6月のソウル国際ブックフェアにも出展し、5日間で数千冊の本が売れるほど人気だったそうです。

書店劇場「ラブレ」

ソウル市の麻浦区にある世界文学専門書店で、笑いと演劇、カーニバル精神を盛り込んだ本を中心に販売しています。21年4月に文学研究者と演劇人が意気投合して作った書店で、昼間は書店ですが、夜はイベントが行われる劇場に変身します。毎週

「読む気持ち」書店のオリジナル紙袋。



「探鳥本屋」の店内には鳥にまつわるグッズがいっぱい！



書店劇場「ラブレ」。本棚がスッキリと配置されているのがわかる。

木曜日には朗読会を行い、時には文学おしゃべり会、夏には町内祭りとのど自慢大会、秋にはドストエフスキー作文大会を開催します。「書店に偽装した小劇場」をコンセプトに空間を設計して、舞台空間を確保するために壁面だけに本棚を配置し、多様な照明で舞台効果を生かします。

鳥と恋に落ちた本屋さん「探鳥本屋」

野生の鳥を観察する「探鳥」をテーマに京畿道の水原市で営業する書店です。この書店のパウ・イムジャ代表は、児童保護専門機関で心理治療担当者として10年間働き、15年に、偶然アパート（マンション）で鳥を観察する「アパート探鳥団」活動をしているうちに探鳥の魅力にはまりました。探鳥の心理治療の効果を知り、たまたま本を売る以外に革工芸

をしている書店もあるという話を聞いて、書店を開く決心をしたそうです。21年6月にオープンしたこの書店では、鳥に関する書籍や鳥類図鑑、そして双眼鏡を購入することができます。樹木園など地域の4カ所で探鳥プログラムを運営し、近隣学校での探鳥サークル教育も並行しています。

健康本屋「日日好日」

ソウルのど真ん中にある伝統的な韓屋（韓国住宅）で「健康百書」を紹介しています。ヘルス・コミュニケーション会社であるエンザイム・ヘルスが21年1月に設立し運営する空間で、新刊のブックトークや健康講演会を開催します。毎月テーマを決めて小さな展示会も開いています。主に売れている本は、年齢に関係なく健康な心と癒やしのメッセージを盛り

(左)「日日好日」の外観。伝統的な韓屋（韓国住宅）の佇まいが印象的。(右) 健康に関する書籍およそ100点を販売している。





絵本に出てきそうなかわいらしい外観の「鹿の本屋」。



込んだ本だそうです。体の健康に劣らず、幸せを求める心の健康がみんなの関心事だからでしょう。

絵本に出てきそうな絵本専門書店「鹿の本屋」

韓国人が休暇のシーズンにいちばん行きたいところである済州島の朝天邑で絵本作家が運営する絵本専門書店です。展示されている本の70%以上は、ヨーロッパやアジアなど韓国以外のユニークな絵本、ポップアップブック、ペーパーカッティングブックで、本を手にとった人の購買欲を刺激します。四季折々花が散らない夢のような空間を作り、旅行者の心をとらえています。

子どもと青少年のための

人文学書店「インディゴ書院」

韓国一の港である釜山には04年にオープンした人文学書店があります。1階は子どもの本、2階は青少年と大人のための良書を推薦し、多様な講演、雑誌および単行本の出版に至るまで精力的に活動しています。23年の10月からは予約制をテスト実施しています。素敵な書店で本を長い時間見て購入はしなかったり、写真だけを撮ってSNSにアップする利用が増え、やむを得ず打ち出した対策です。20歳以上の大人は8,000ウォン（およそ800円）、19歳までは2,000ウォン（およそ200円）を訪問予約金として受け取り（オンライン・チケット予約）、図書を購入するとその予約金分が差し引かれます。購入しない



釜山にある「インディゴ書院」の外観。
予約制をテスト実施している。



書店レポート from 韓国

Report

韓国の 新しい書店 &

今話題の書店



色とりどりの美しい本がディスプレイされている。

と払い戻しができないわけです。書店は公共図書館とは異なる商業空間であることを悟らせてくれます。

もと大統領が運営する「平山本屋」

本好きの文在寅・前大統領が、23年4月に故郷の慶尚南道梁山市下北面にオープンした書店です。退任して1年後のことで、今でも月に2万人ほどが訪れ、1万部ほどが販売されるそうです。収益は地域社会にも分配しています。実際に近隣地域の小中高4校の生徒たちが選択した本を1人当たり3冊ずつ無料でプレゼントしました。5つの村の敬老堂（老人憩いの場）で朗読活動を行ったり、読書サークル（詩を読む会、絵本を読む会）を運営したり、書店を訪れた客がこの地域の食堂などで1万ウォン以上支

払った領収書があれば5%割引販売する「ペイブック（paybook）」を実施しています。地域の町内6カ所の書店で推薦した本を展示・販売し、その収益金を地域書店に寄付する「町内の書店友達を紹介しませう」プロジェクトも行っています。

本を読まなくても、生きるのに差し支えないと考える人が増えています。本当でしょうか？書店はどうすればいいのでしょうか。人もそうですが、独特の個性と魅力があふれる書店であるほど存在価値を失わず、ほかでは売れなかった本にも購入動機を与えられます。読者の「読む気持ち」「買う気持ち」を引き出すなら、書店の可能性は無限に開かれているということでしょう。



前大統領が運営する「平山本屋」は、本を読む社会と、社会公益を目指す。前大統領の文在寅氏（右）。